

コード	202010401
記入日	H23.6.10

事務事業途中評価表

課コード	119
課名	建築課
課長名	法村 栄三
担当者	松岡 貢

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	街なみ環境整備事業
----------	-----------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 16 年度 ~ 平成 25 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8
施策コード	202	施策名称	ゆとりある住宅・住環境の整備	項コード	6
基本事業コード	20201	基本事業名称	快適な住宅・住環境の整備	目コード	2
事務事業コード	2020104	事務事業名称	国庫補助事業費（住宅）	細目コード	628
関連計画		法令・条例規則等	街なみ環境整備事業制度要綱		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 地区住民		(対象指標1)	178人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・ 通路の新設（1路線）153m ・ 通路の美装化（5路線）342m ・ 小公園の整備（2箇所）359㎡ ・ 緑地整備（1箇所）2,560㎡ ・ 交流センター1棟 ・ 交流センター（造成）2,450㎡ ・ 街なみ整備助成10戸	・ 平成22年度実施事業 →通路の美装化 135m →交流センター外構整備 716㎡	全体事業進捗率	80.1%	80.1%	累積事業費+全体事業費	平成25年度
		当該年度事業進捗	9.0%	100%		平成22年度
		① (達成率分析)	計画通り実施することができた。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
・ 船崎地区は、遣唐使の時代、中国から饅頭（うどん）の製法が伝えられた地区であり、現在でも手延べ饅頭が作られている。わが国のうどん発祥の地と言われ、生きた歴史資源ともいべき場所である。しかし、離島の小集落であることから近年は高齢化と過疎化が進み、その存亡をも危惧されている状況である。また、集落内に網の目状に存する幅1~2mの通路は狭く粗悪で、高齢者の通行等に支障をきたしている。そのため、整備方針は、通路は自然素材を用いた透水性景観舗装とし、従来の石積みを残し、素朴な集落全体の景観の保全・改善を図り、公園、広場、緑地を整備し、地域住民の憩い・ふれあいの場を確保して次世代を見越した居住環境の向上を目的とする。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		交流センター利用者数	1,500人	*****	年間利用者数+目標利用者数	平成25年度
		① (達成率分析)	交流センター利用者数	1,972人	131.5%	平成22年度
		② (達成率分析)	全体事業未完了のため、当該年度利用者数は参考数値とし、事後評価にて達成率を算出する。			
		③ (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① %	100	80.1	71.0	8.8	9.0	5.5	7.2	7.2	
	②									
成果指標	① 人	1,500			1,500	1,972				1,500
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	270,647	211,987	197,721	21,400	14,266	18,726	16,400	16,400	
直接事業費 A	千円	237,747	183,287	170,421	20,000	12,866	17,326	15,000	15,000	
人件費 B	千円	32,900	28,700	27,300	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	
内訳	従事職員数	人	4.7	4.1	3.9	0.2	0.2	0.2	0.2	
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	111,761	84,435	78,098	10,000	6,337	8,663	7,500	7,500
	県補助金	千円								
	起債	千円	118,200	92,300	86,300	9,500	6,000	8,200	7,100	7,100
	その他	千円								
一般財源	千円	40,686	35,252	33,323	1,900	1,929	1,863	1,800	1,800	

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	うどん製法が伝えられた地として価値のある同地区の街なみ整備は必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	素朴な集落全体の景観を残しながらも、次世代の人が住みたくなるような住環境の整備が必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	地元住民の生活向上と併せて景観を整備するため適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	現在、整備されている「小公園」は付近住民の憩い・ふれあいの場としての機能を発揮し、「通路の新設」として整備された延長153mの車両用通路は地区住民の生活向上に寄与している。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	計画とおりに事業は進捗しており、向上の余地はない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	交流センターの建設により、地区公民館としての機能のほか、うどん伝承部門での船崎饅頭製法の伝承の場、後継者育成の場としての活用が期待されている。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	現設計は最小の経費で最大の効果を発揮する設計となっているが、通路・小公園毎に計画の一部を見直すことで経費削減に努めたい。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小限の人員であり、事業を推進する上でできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担は発生しない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現計画において「通路」「小公園」は整備箇所が複数であるため、地元協議等にて必要性を再検討し、整備箇所数の削減を図る。
		有効性	町と地区住民とで「船崎郷まちづくり協定」を締結し、地区住民との協議の上で景観整備や生活向上を図っている。
		効率性	必要最小限の人員にて対応しているため人件費の削減はできない。
		課題に向けた改善策	特になし
	2次評価	妥当性	住民の住環境整備のためにも妥当である。
		有効性	交流センターの利活用で「船崎うどん」の伝承や観光に期待が図られる。地域との連携を密に有効な活用に努めること。
		効率性	街なみ環境整備事業の進捗にあわせ事業費の適正な執行を図ること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
				このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
	●	●		事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。